

平成 2 8 年 度  
( 2 0 1 6 年 度 )

# 大学院スポーツ科学研究科

履 修 要 項

桐 蔭 横 浜 大 学

# 目 次

II 大学院履修要項 .....	36
1. 修士課程 (1)開講科目担当教員表 .....	37
(2)履修案内 .....	38
(3)シラバス .....	39

## II 大学院履修要項

# 1. 修士課程

## (1) 開講科目担当教員表

科目区分	授業科目	担当教員	単位数		標準履修年次			
			必修	選択	1年次		2年次	
					前	後	前	後
共通科目	スポーツ科学特論 (※)	各担当教員	2		2			
	特別研究演習Ⅰ (※)	各担当教員	2		2			
	特別研究演習Ⅱ	各担当教員	2			2		
	スポーツ教育サポート演習 (※)	吉鷹・櫻井(拓)	2				2	
展開科目	スポーツ健康科学領域	健康科学特論 (※)		2	2			
		運動生理学・生化学特論 (※)		2	2			
		スポーツ医学特論	河崎 賢三		2	2		
		スポーツ栄養学特論	殖田 友子		2	2		
		健康・スポーツ工学特論	箱木 北斗		2		2	
		バイオメカニクス特論	伊藤 雅充		2	2		
		トレーニング・運動処方学特論 (※)	桜井智野風		2		2	
		スポーツ理学療法学特論	櫻井 拓也		2		2	
		スポーツコーチ学特論 (※)	吉鷹 幸春		2	2		
		スポーツ情報学特論	杉田 正明		2	2		
		障害者スポーツ医科学特論	橘 香織		2		2	
		ヘルスケア特論	片山富美代		2		2	
	スポーツ文化科学領域	体育科教育学特論 (※)	松本格之祐		2	2		
		保健科教育学特論 (※)	井筒 次郎		2	2		
		身体とメディア特論	並木 浩一		2		2	
		スポーツ心理学特論 (※)	渋谷 崇行		2	2		
		生涯スポーツ特論 (※)	野村 一路		2		2	
		スポーツ政策学特論	田中 暢子		2		2	
		スポーツ社会学特論	吉田 毅		2	2		
スポーツマネジメント学特論		恩田 哲也		2		2		
スポーツ文化人類学特論		大野 哲也		2	2			
身体と文化特論		今泉 隆裕		2		2		
スポーツ法学特論	入澤 充		2	2				
スポーツ哲学特論	瀧澤 康二		2	2				
スポーツ行政学特論	吉田 勝光		2	2				
演習科目	共通領域	学校スポーツ演習Ⅰ	松本格之祐		2		2	
		学校スポーツ演習Ⅱ (※)	井筒 次郎		2			2
	スポーツ健康科学領域	スポーツ健康科学演習Ⅰ (※)	桜井(智)・廣瀬・小山		2	2		
		スポーツ健康科学演習Ⅱ	殖田 友子		2		2	
		スポーツ健康科学演習Ⅲ	河崎・櫻井(拓)		2	2		
		スポーツ健康科学演習Ⅳ (※)	星・清水		2		2	
	スポーツ文化科学領域	スポーツ文化科学演習Ⅰ (※)	渋谷 崇行		2		2	
		スポーツ文化科学演習Ⅱ	吉田 勝光		2	2		
スポーツ文化科学演習Ⅲ (※)		大野 哲也		2	2			
スポーツ文化科学演習Ⅳ		田中 暢子		2		2		
(研究指導)								

(※) は専修免許取得に必要な科目です。専修免許取得希望者は、この中から最低24単位を修得する必要があります。

## (2) 履修案内

### 1. 履修申告について

授業を受けるためには、定められた期間内に学務部で履修手続をしなければなりません。履修申告されていない授業科目は、たとえ授業に出席しても、試験を受けることはできず、単位も認定されません。

病気その他やむを得ない事情により、定められた期間内に手続ができない場合は、手続期限前に学務部に連絡して下さい。事前の連絡がなく提出期限が過ぎた履修申告書は、一切受け取りません。

履修申告書は、各学期の履修申告期間に指導教員の確認印を得てから学務部へ提出して下さい。

### 2. 分野別共通科目の履修について

いずれの専門分野においても、英語の論文を読解し、英語で研究発表する能力が要求されます。

### 3. 学部の科目履修について

学部の科目を履修し、教員免許等の資格を取得する際は学部のハンドブックを参照して下さい。

### 4. 成績評価について

A、B、C、Dによる評価

- ①申告された授業科目の履修成績は、各担当教員による成績評価の方法と基準によって合格か不合格かが認定されます。成績の採点は、100点満点で行われ、60点以上を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。

成績評価の表示はA、B、C、Dによって行われ、その点数区分は以下のとおりです。

A : 80点以上 100点

B : 70点以上 80点未満

C : 60点以上 70点未満

D : 60点未満 (不合格)

- ②成績は上記評価により、学期ごとに次の学期始めに本人に配付されます。

### 5. 休講、授業連絡、事務連絡等について

休講、補講、集中講義、あるいは試験日程など授業に関連した一般的な連絡、または、特定の学生に対する呼出し・連絡などは、すべて掲示板を通じて行われます。掲示内容に疑問があれば、ただちに学務部の窓口もしくは担当教員に連絡をしてください。

\*本学のホームページでも休講・補講情報が閲覧できます。

パソコン <https://syllabus.toin.ac.jp/syllabus/>

呼出しや授業連絡、学位論文などについては掲示板でしか知ることのできない内容も多いので、必ず掲示板を見るようにして下さい。

- ◎ スポーツ科学研究科掲示板は、中央棟（C棟）4階に設置しています。

### (3)シラバス

科目名	スポーツ科学特論			前期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	星 秋夫・桜井 智野風・松本 格之祐・吉田 勝光・渋谷 崇行			
本科目のねらい 高度専門的職業人を養成すべく、スポーツ科学における先駆的・実践的研究を理解するとともに、それらの研究実施に当たっての、研究計画の立案とその設計に関する知識を深めることに主眼をおき、オムニバス形式で授業の展開を図る。				
教科書 その都度照会する。				
参考文献 その都度照会する。				
成績評価の方法と基準（必須項目） 授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。				
履修条件（学生への要望） 特になし。				
授業計画 健康科学の視点より（星 秋夫） 第1回（1）スポーツ科学と健康科学の関連 第2回（2）スポーツと環境の疫学的研究の特徴および方法 第3回（3）人間活動という視点からスポーツによる健康影響に関する研究方法 運動生理学の視点より（桜井 智野風） 第4回（1）健康・体力論 第5回（2）発育発達、加齢にともなう健康体力 第6回（3）健康体力づくり活動の実態 保健体育教育学の視点より（松本 格之祐） 第7回（1）スポーツ科学と保健体育科教育学 第8回（2）学校体育の役割 第9回（3）学校体育と生涯体育 スポーツ行政・政策学の視点より（吉田 勝光） 第10回（1）スポーツ行政・政策学の役割 第11回（2）スポーツ行政・政策の実態 第12回（3）組織運営・人材育成 スポーツ心理学の視点より（渋谷 崇行） 第13回（1）スポーツ科学におけるスポーツ心理学の役割 第14回（2）パフォーマンスと心理 第15回（3）メンタルトレーニング				

科目名	特別研究演習 I			前期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	星 秋夫・井筒 次郎・松本 格之祐・渋谷 崇行・田中 暢子・ 桜井 智野風・河崎 賢三・片山 富美代			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ科学研究の導入として、研究分野の異なるスポーツ健康科学領域、スポーツ文化科学領域の専任教員8名により、体育・スポーツの研究活動を行う上で必要な自然科学、人文科学・社会科学、教育学的側面からの多角的な知識を身につける際に必要な演習を行う。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 健康科学の観点からの検討（1）（星 秋夫）  第2回 保健科教育学の観点からの検討（1）（井筒 次郎）  第3回 保健科教育学の観点からの検討（2）（井筒 次郎）  第4回 体育科教育学の観点からの検討（1）（松本 格之祐）  第5回 体育科教育学の観点からの検討（2）（松本 格之祐）  第6回 スポーツ心理学の観点からの検討（1）（渋谷 崇行）  第7回 スポーツ心理学の観点からの検討（2）（渋谷 崇行）  第8回 スポーツ政策学の観点からの検討（1）（田中 暢子）  第9回 スポーツ政策学の観点からの検討（2）（田中 暢子）  第10回 運動生理学の観点からの検討（1）（桜井 智野風）  第11回 運動生理学の観点からの検討（2）（桜井 智野風）  第12回 スポーツ医学の観点からの検討（1）（河崎 賢三）  第13回 スポーツ医学の観点からの検討（2）（河崎 賢三）  第14回 ヘルスケア学の観点からの検討（1）（片山 富美代）  第15回 ヘルスケア学の観点からの検討（2）（片山 富美代）</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	星 秋夫			
<p>本科目のねらい</p> <p>修士論文作成に向け、研究テーマの決定、研究計画の立案、研究結果の整理と考察等を行う能力を養い、学生自身が研究テーマに即した論文内容を正確に把握し、簡潔にまとめて発表を行う能力を養う。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに  第2回 健康科学研究の進め方（1）  第3回 健康科学研究の進め方（2）  第4回 健康科学研究の進め方（3）  第5回 健康科学研究の進め方（4）  第6回 健康科学研究の方法と分析（1）  第7回 健康科学研究の方法と分析（2）  第8回 健康科学研究の方法と分析（3）  第9回 健康科学研究の方法と分析（4）  第10回 健康科学研究の実態と課題の認識（1） 先行研究・文献研究  第11回 健康科学研究の実態と課題の認識（2） 先行研究・文献研究  第12回 健康科学研究の実態と課題の認識（3） 先行研究・文献研究  第13回 健康科学研究の実態と課題の認識（4） 先行研究・文献研究  第14回 健康科学研究の実態と課題の認識（5） 先行研究・文献研究  第15回 おわりに</p>				



科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	井筒 次郎			
<p>本科目のねらい</p> <p>特別研究演習Ⅰの成果を踏まえ、中学校または高等学校における体育・健康に関する現状の課題を明らかにするとともに、それらを解決するために必要な研究のあり方、方法について理解を深めるのが本演習のねらいである。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度授業担当者が準備する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業への出席状況及びレポート、発表実績等から総合的に判断する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>中学校または高等学校の保健体育教師になることを希望している者。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに(本演習のねらい)</p> <p>第2回 中学校、高等学校における体育に関する現状の課題とその分析方法</p> <p>第3回 中学校、高等学校における健康に関する現状の課題とその分析方法</p> <p>第4回 中学校、高等学校における安全に関する現状の課題とその分析方法</p> <p>第5回 中学校における体育に関する課題解決の方法について</p> <p>第6回 高等学校における体育に関する課題解決の方法について</p> <p>第7回 中学校における健康に関する課題解決の方法について</p> <p>第8回 高等学校における健康に関する課題解決の方法について</p> <p>第9回 中学校における安全に関する課題解決の方法について</p> <p>第10回 高等学校における安全に関する課題解決の方法について</p> <p>第11回 中学校、高等学校における体育の課題とその解決方法に関する発表、及びそれに対する相互評価</p> <p>第12回 中学校、高等学校における健康の課題とその解決方法に関する発表、及びそれに対する相互評価</p> <p>第13回 中学校、高等学校における安全の課題とその解決方法に関する発表、及びそれに対する相互評価</p> <p>第14回 まとめのレポート作成</p> <p>第15回 本演習のまとめ</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	松本 格之祐			
<p>本科目のねらい</p> <p>本授業は、体育科教育にかかわる研究テーマについて修士論文を作成する学生を対象に開講する。体育授業の目標・内容・方法・評価や教科体育の歴史や著名な研究者や実践者、実践校の研究等、体育科教育の対象は幅広い。また、修士論文の作成に向けて、卒業研究の継続だけでなく新たな興味や関心に即した対象も含めた中からの研究テーマの決定、研究テーマを明らかにするための研究計画の立案、計画の実践・取り組みによって得られた研究結果と考察等を遂行する学生の能力の育成を図る。加えて、中間審査や最終審査における発表資料の作成と発表についての学生の力量も育成する。</p>				
<p>教科書</p> <p>未定。</p>				
<p>参考文献</p> <p>修士論文および卒業論文。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>先行研究の検討やプレゼンテーション等を通して獲得をした修士論文作成の力量および学習への取り組み等を総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>体育授業の改善に強い意欲を持って取り組むことのできる学生を望む。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 先行研究の輪読と発表（1）  第2回 先行研究の輪読と発表（2）  第3回 先行研究の輪読と発表（3）  第4回 先行研究の輪読と発表（4）  第5回 先行研究の輪読と発表（5）  第6回 研究テーマと研究計画の検討（1）  第7回 研究テーマと研究計画の検討（2）  第8回 研究テーマと研究計画の検討（3）  第9回 研究テーマと研究計画の検討（4）  第10回 研究テーマと研究計画の検討（5）  第11回 予備的調査・実践ととその検討・考察（1）  第12回 予備的調査・実践ととその検討・考察（2）  第13回 予備的調査・実践ととその検討・考察（3）  第14回 予備的調査・実践ととその検討・考察（4）  第15回 予備的調査・実践ととその検討・考察（5）</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	河崎 賢三			
<p>本科目のねらい</p> <p>修士論文作成に向けて、研究テーマの決定、研究計画の立案、研究結果の整理と考察等を行い、さらには学生自身が研究テーマに即した論文内容を正確に把握し、簡潔にまとめて発表を行う能力を養う。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに  第2回 スポーツ医科学研究の進め方（1）  第3回 スポーツ医科学研究の進め方（2）  第4回 スポーツ医科学研究の進め方（3）  第5回 スポーツ医科学研究の進め方（4）  第6回 スポーツ医科学研究の方法と分析（1）  第7回 スポーツ医科学研究の方法と分析（2）  第8回 スポーツ医科学研究の方法と分析（3）  第9回 スポーツ医科学研究の方法と分析（4）  第10回 スポーツ医科学研究の実態と課題の認識（1） 先行研究・文献研究  第11回 スポーツ医科学研究の実態と課題の認識（2） 先行研究・文献研究  第12回 スポーツ医科学研究の実態と課題の認識（3） 先行研究・文献研究  第13回 スポーツ医科学研究の実態と課題の認識（4） 先行研究・文献研究  第14回 スポーツ医科学研究の実態と課題の認識（5） 先行研究・文献研究  第15回 おわりに</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	桜井 智野風			
<p>本科目のねらい</p> <p>修士論文（運動生理・生化学、トレーニング科学）の研究に向けて、各自の研究テーマに沿った最新の研究論文レビューを行う。論文内容を正確に把握し、簡潔にまとめて発表を行う能力を養い、最先端の問題に対する理解の深化を目指す。</p>				
<p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業にて随時配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>小レポート（50%）、授業における発表（25%）、中間発表会（25%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>発表された論文の復習と、次回発表論文の予習をしておくこと。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 修士論文・課題研究論文の全体構成の確認と質疑（1）</p> <p>第2回 修士論文・課題研究論文の全体構成の確認と質疑（2）</p> <p>第3回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（1）</p> <p>第4回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（2）</p> <p>第5回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（3）</p> <p>第6回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（4）</p> <p>第7回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（5）</p> <p>第8回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（6）</p> <p>第9回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（7）</p> <p>第10回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（8）</p> <p>第11回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（9）</p> <p>第12回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（10）</p> <p>第13回 修士論文・課題研究論文に関連する最新の研究論文レビュー（11）</p> <p>第14回 中間発表会（1）</p> <p>第15回 中間発表会（2）</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	渋谷 崇行			
<p>本科目のねらい</p> <p>修士論文を執筆する能力を養う。研究者としての自覚を持ち、研究目的の設定、研究方法の決定、研究計画の立案、データ収集と分析の方法等を理解する。また、論文執筆や研究発表の方法を熟知し、学生が指導教員の指導の下、自立的に研究活動を展開することができる能力を育成することをねらいとする。</p>				
<p>教科書</p> <p>授業内で適宜、紹介する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業内で適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>レポート（40%）、討論やグループワーク・課題への参画（60%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 研究者の倫理と研究スケジュールの立て方  第2回 研究目的の設定（1）  第3回 研究目的の設定（2）  第4回 研究方法の検討（1）  第5回 研究方法の検討（2）  第6回 研究計画の立案（1）  第7回 研究計画の立案（2）  第8回 データ収集の方法（1）  第9回 データ収集の方法（2）  第10回 データ分析の方法（1）  第11回 データ分析の方法（2）  第12回 論文執筆の方法（1）  第13回 論文執筆の方法（2）  第14回 研究発表の方法（1）  第15回 研究発表の方法（2）</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	片山 富美代			
<p>本科目のねらい</p> <p>特別研究演習Ⅰの学びをふまえ、自分の専門領域の研究に関する研究課題を科学的に探求する。また、修士論文作成に向け、研究テーマの設定、研究計画の立案、結果と考察、文献などに関する論文作成の過程を理解する。これらを通して研究を行う能力を養う。</p>				
<p>教科書</p> <p>特になし。</p>				
<p>参考文献</p> <p>必要時に授業の中で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>課題発表を含めた授業への取り組み（50%）とレポート（50%）で評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>自らの疑問を自ら解決しようとする意欲をもって出席してください。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに  第2回 ヘルスケア研究の進め方（1）  第3回 ヘルスケア研究の進め方（2）  第4回 ヘルスケア研究の進め方（3）  第5回 ヘルスケア研究の進め方（4）  第6回 ヘルスケア研究の方法と分析（1）  第7回 ヘルスケア研究の方法と分析（2）  第8回 ヘルスケア研究の方法と分析（3）  第9回 ヘルスケア研究の方法と分析（4）  第10回 ヘルスケア研究の実態と課題の認識（1） 先行研究・文献研究  第11回 ヘルスケア研究の実態と課題の認識（2） 先行研究・文献研究  第12回 ヘルスケア研究の実態と課題の認識（3） 先行研究・文献研究  第13回 ヘルスケア研究の実態と課題の認識（4） 先行研究・文献研究  第14回 ヘルスケア研究の実態と課題の認識（5） 先行研究・文献研究  第15回 おわりに</p>				

科目名	特別研究演習Ⅱ			後期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	田中 暢子			
<p>本科目のねらい</p> <p>本演習では、スポーツ政策に関する論文執筆に必要とされる政策動向を読み解く力の習得を目指す。スポーツ政策を科学的に理解し、説明できるようにするため、政策研究において代表的な具体例を取り上げ、その分析をおこなう。前半では、スポーツ政策において、どのような点に着目する必要があるのか検討する。後半では、スポーツに関する政策研究で用いられてきた分析方法を紹介する。</p> <p>なお、この演習では、実際の政策立案者等を招聘し、話をうかがう機会を設ける。最新の政策動向を聴き、その政策の背景を読み解くことができるようになることを期待する。</p>				
<p>教科書</p> <p>未定。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「Theories of the policy process」 (pp. 117-166). Boulder CO: Westview Press. Sabatier, P. A. (Ed.). (1999).</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>リアクションペーパー（30%）、レポート・報告会（70%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>事前に配布される資料を熟読すること。英語文献も参照する。 英語に関心をもって取り組んでもらいたい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ政策学とは  第2回 スポーツ政策学からみるスポーツの発展  第3回 スポーツ政策の国際的動向と潮流  第4回 スポーツ政策で何をみるのか（1）国の政策と国統括競技団体  第5回 スポーツ政策で何をみるのか（2）政策界の組織構造  第6回 スポーツ政策で何をみるのか（3）資金の流れと利益集団  第7回 スポーツ政策で何をみるのか（4）政策決定と組織  第8回 政策分析フレームワーク（1）政策ネットワーク・フレームワーク  第9回 政策分析フレームワーク（2）唱道連携フレームワーク  第10回 政策分析フレームワーク（3）マルチプルストリーム・フレームワーク  第11回 政策分析演習（1）国の政策実践者から見る政策を通し、政策動向を分析する  第12回 政策分析演習（2）国統括競技団体1（健常者スポーツ団体）  第13回 政策分析演習（3）国統括競技団体2（障害者スポーツ団体）  第14回 政策分析発表会  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ教育サポート演習			前期
単位数	2	必修	授業クラス	スポーツ科学専攻 2年次
担当者名	吉鷹 幸春・櫻井 拓也			
<p>本科目のねらい</p> <p>体育やスポーツを円滑かつ安全に実施するためには、指導者を含めたサポートが必要不可欠である。ここで言うサポートとは、身体的（トレーニング、コンディショニング、ケア、治療、栄養など）、精神的（メンタルサポート）、物理的（道具、場所など）な事柄であり、多岐にわたる。</p> <p>本授業では、教育およびスポーツ現場における体育・スポーツの指導者あるいはサポート（ケアおよびコンディショニング指導等）を行う者の具体的思考、手法を学び、自らの現場対応能力の育成を目的とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「新スポーツトレーナーマニュアル」南江堂。</p>				
<p>参考文献</p> <p>未定。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席、レポート、課題取り組み能力などを総合的に判断。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツサポートの概要について</p> <p>第2回 コーチングについて</p> <p>第3回 トレーニングとコンディショニング（ストレングス）</p> <p>第4回 トレーニングとコンディショニング（アジリティ）</p> <p>第5回 トレーニングとコンディショニング（スタビリティ）</p> <p>第6回 トレーニングとコンディショニング（ストレッチング）</p> <p>第7回 傷害予防とケア（物理療法）</p> <p>第8回 傷害予防とケア（徒手療法）</p> <p>第9回 傷害予防とケア（テーピング）</p> <p>第10回 スポーツ教育サポート （バスケットボール、ハンドボール、サッカー、野球、柔道、水泳等、現場における実習、調査および討論）</p> <p>第11回 スポーツ教育サポート （バスケットボール、ハンドボール、サッカー、野球、柔道、水泳等、現場における実習、調査および討論）</p> <p>第12回 スポーツ教育サポート （バスケットボール、ハンドボール、サッカー、野球、柔道、水泳等、現場における実習、調査および討論）</p> <p>第13回 スポーツ教育サポート （バスケットボール、ハンドボール、サッカー、野球、柔道、水泳等、現場における実習、調査および討論）</p> <p>第14回 スポーツ教育サポート （バスケットボール、ハンドボール、サッカー、野球、柔道、水泳等、現場における実習、調査および討論）</p> <p>第15回 総括</p>				



科目名	健康科学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	星 秋夫			
<p>本科目のねらい</p> <p>日本における高齢化社会の進展や疾病構造の変化に伴い、国民の健康の維持・増進の重要性が増大しており、健康づくりや疾病予防を積極的に推進することが必要とされている。また、ヒトの健康は気象条件により大きく影響を受ける。本講義では、健康・気象・体力に関する学問及び最新の研究方法を体系的に学習する。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに  第2回 ヘルスマネジメントの考え方  第3回 健康指標から見たわが国の保健・衛生の状況  第4回 わが国における健康づくり政策の変遷  第5回 健康日本21および介護予防の現状と課題  第6回 メタボリックシンドローム、特定健診制度の現状と課題  第7回 ヘルスプロモーションの考え方  第8回 身体活動の効果（呼吸循環器）  第9回 身体活動の効果（代謝）  第10回 身体運動の効果（免疫機能）  第11回 身体活動と寿命  第12回 環境衛生と健康（暑熱）  第13回 環境衛生と健康（寒冷）  第14回 環境衛生と健康（大気汚染）  第15回 まとめ</p>				

科目名	運動生理学・生化学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	桜井 智野風			
<p>本科目のねらい</p> <p>運動時や運動トレーニング後に骨格筋や脂肪組織には適応反応が生ずる。このメカニズムを、細胞レベルから競技パフォーマンスに至るまでの生理的・生化学的な観点から解説する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「運動生理学の基礎と発展」春日規克、竹倉宏明編 フリースペース。</p>				
<p>参考文献</p> <p>各授業時に配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>平常点（30%）、授業中の提出物（20%）、課題レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>各自にテーマを与えたプレゼンテーションを実施するので、予備学習を必要とする。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（運動生理学・生化学とは？）</p> <p>第2回 運動と神経・感覚</p> <p>第3回 運動とホルモン</p> <p>第4回 運動と筋肉</p> <p>第5回 運動と脂肪</p> <p>第6回 運動と呼吸</p> <p>第7回 運動と循環</p> <p>第8回 運動と血液・尿</p> <p>第9回 運動と体温</p> <p>第10回 運動と栄養・代謝</p> <p>第11回 運動と発育・発達</p> <p>第12回 運動と加齢</p> <p>第13回 パフォーマンスに及ぼす環境要因（暑熱・寒冷）</p> <p>第14回 パフォーマンスに及ぼす環境要因（高圧・低圧低酸素・水中環境）</p> <p>第15回 課題発表</p>				

科目名	スポーツ医学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	河崎 賢三			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ医学とはスポーツなどの身体運動によって生体に生じる変化、すなわちスポーツの科学的解析や生体の急性的慢性的変化を解明したり、これらの変化に及ぼす因子を解明し、さらにはその知見に基づいて心身の健康や体力・競技能力の向上、疾病や傷害の予防・治療・リハビリテーションに活用され、究極的には人々の健康を追求する学問である。本講ではスポーツ医学に関する基礎的な知識に加え、最新の情報・知識の習得を目指すとともにならびに現在最先端で行われている検査法・治療法などを紹介し、今後の発展性についても考察し、スポーツ医学全般の深い知識と幅広い発展性を考察する力をつけることを目的とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ医学研修ハンドブック（基礎科目・応用科目）」。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜必要な文献を配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席と課題への取り組み内容（レポート）によって評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>教科書以外のスポーツ医学に関する新聞記事や雑誌、ならびに書物などに目を通し、自学自習できる力を身につけていただきたい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>授業形式はまずは課題となる疾患・傷害をいくつか提示しそれに関する討論を行い、最後にまとめを行う。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 スポーツ医学概論  第3回 整形外科的傷害（膝）  第4回 整形外科的傷害（足）  第5回 整形外科的傷害（肩）  第6回 整形外科的傷害（肘）  第7回 整形外科的傷害（腰部）  第8回 脳神経外科的傷害（頭部）  第9回 脳神経外科的傷害（頸部）  第10回 内科的疾患（心疾患）  第11回 内科的疾患（呼吸器疾患）  第12回 内科的疾患（その他）  第13回 発育期に特有な傷害（1）  第14回 発育期に特有な傷害（2）  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ栄養学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	殖田 友子			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ栄養学を理解するためには、広範囲の基礎知識を持つことが大前提である。栄養学にとどまらず、運動生理学やスポーツ医学の基礎知識も不可欠である。その基礎を築いた上で、スポーツや運動時の身体の栄養状態をアセスメント(評価)する技術を身に付け、データを読みこなすことが重要である。疲労回復を早めたり記録を伸ばすために、栄養状態はどう調整する必要があるのか、また、そのためのトレーニングと食事やサプリメントの量と質、回数や時間設定はどのように行うべきなのか。以上のようなスポーツ栄養学の知識や技術を、根拠をあげて説明できるレベルに到達することを目標とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト9 スポーツと栄養」。</p>				
<p>参考文献</p> <p>講義中に指示する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準(必須項目)</p> <p>演習シート、復習テストなどで総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件(学生への要望)</p> <p>学部レベルの栄養学や運動生理学、スポーツ医学の知識は復習しておくこと。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション ～スポーツ栄養学を学ぶ意義と学習方法を理解する  第2回 栄養学の基礎知識復習  第3回 運動生理学とスポーツ医学の基礎知識復習  第4回 アスリートの身体組成、からだづくりとウェイトコントロール  第5回 アスリートのエネルギー消費量 ～推算方法の理解と演習  第6回 グリコーゲン補給と回復のための栄養補給  第7回 ビタミン摂取とコンディション ～ビタミンB群の重要性を中心に  第8回 基礎知識の復習とノート中間提出、講評  第9回 アスリートの水分補給 ～必要量推定と補給法  第10回 アスリートの食事計画の基本  第11回 栄養過不足の兆候と対策  第12回 種目特性、期分けと食事  第13回 遠征や合宿時の食事計画  第14回 サプリメントの種類と選択、使用上の注意点  第15回 レポート作成とノート提出</p>				

科目名	健康・スポーツ工学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	箱木 北斗			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツにおける身体動作の仕組みを工学的なアプローチにより解明し、パフォーマンスの向上、健康増進、外傷や障害の予防、トレーニング機器やスポーツ用品の開発を目指す。特に、スポーツにおける身体の動きをリンクモデルによる解析を行うと共に、衝撃吸収材をバネ、ダンパーモデル使ってその性質を明らかにする。また、身体計測センサや装置の仕組みとこれらを使った測定法も学習する。</p>				
<p>教科書</p> <p>資料を作成し適宜配付する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「スポーツデータ」太田憲他 共立出版。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>講義への参加状態および提出物によって総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ工学の概要  第2回 ビデオ画像と速度、加速度の計測  第3回 ひずみゲージによる力計測の原理  第4回 回転角、回転速度とパワーについて  第5回 エルゴメーター、ローイングマシンの原理  第6回 バイオデックスと筋力測定  第7回 リンク機構による運動解析  第8回 順運動学と逆運動学  第9回 同時変換とヤコビ行列  第10回 加速度センサを用いた運動計測  第11回 運動量と衝撃力  第12回 競技場のサーフェス特性と人間の衝撃吸収機構  第13回 競技シューズの衝撃特性  第14回 マス、バネ、ダンパーモデルによる粘弾性特性  第15回 用具の粘弾性特性</p>				

科目名	バイオメカニクス特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	伊藤 雅充			
<p>本科目のねらい</p> <p>この授業では、力学的な基礎知識や人体に関する知識をもとに、日常生活やスポーツ等でみられる様々な動作に関するより深い理解を試みる。特にスポーツパフォーマンス向上の観点から、スキル獲得理論やコーチングの理論を交え、いかに効率よい動きを実現させるのかについて考えていく。</p>				
<p>教科書</p> <p>未定。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「スポーツバイオメカニクス20講」阿江・藤井著 朝倉書店。  「スポーツバイオメカニクス」深代他 著 朝倉書店。  「バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎」金子・福永編 杏林書院。  「Dynamics of Skill Acquisition」Davids他 著 Human Kinetics。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>成績評価は毎回の授業後に提示する課題（50%）および最終課題レポート（50%）を基本に行う。授業内で扱った内容を理解しているかどうかの評価の基準となる。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 身体運動の成り立ち（1）  第3回 身体運動の成り立ち（2）  第4回 力学的基礎（1）  第5回 力学的基礎（2）  第6回 ロコモーションのバイオメカニクス  第7回 跳躍運動のバイオメカニクス  第8回 投運動のバイオメカニクス  第9回 打撃運動のバイオメカニクス  第10回 泳ぎや滑りのバイオメカニクス  第11回 スキル獲得理論  第12回 効果的なスキルのコーチング  第13回 バイオメカニクスの学校体育への活用  第14回 バイオメカニクスのハイパフォーマンススポーツへの活用  第15回 バイオメカニクスの日常生活への活用</p>				

科目名	トレーニング・運動処方学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	桜井 智野風			
<p>本科目のねらい</p> <p>体力の定義、トレーニングの基礎理論、体力向上のための種々のトレーニングの方法、トレーニング計画の立案と実際等に関する基礎知識を学ぶ。また、これらトレーニングの基礎理論に基づく、体力の諸要素を高めるトレーニング全般について学習し、トレーニング計画の立案と実践ができるようになることを目標とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>指定のテキストは使用しない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>各授業時に配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>平常点（30%）、授業中の提出物（20%）、課題レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>各自にテーマを与えたプレゼンテーションを実施するので、予備学習を必要とする。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス（トレーニング・運動処方とは？）  第2回 体力の定義（身体的要素、精神的要素、行動体力、防衛体力等）  第3回 トレーニングの基礎理論（原理原則、トレーニング処方、ウォーミングアップ、クーリングダウン等）  第4回 全身持久力のトレーニング（インターバルトレーニング）  第5回 全身持久力のトレーニング（LSD）  第6回 筋力トレーニング（ローパワー・ミドルパワー）  第7回 筋力トレーニング（ハイパワー）  第8回 総合的体力トレーニング  第9回 青少年期の成長発育のトレーニング  第10回 女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング  第11回 加齢に伴う体力低下とトレーニング  第12回 トレーニング理論とその方法  第13回 トレーニング計画と実際（超回復）  第14回 トレーニング計画と実際（トレーニングサイクル）  第15回 総括討議</p>				

科目名	スポーツ理学療法学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	櫻井 拓也			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ傷害（スポーツ外傷およびスポーツ障害）の理学療法では、傷害に対するリハビリテーションが中心となるが、傷害に至った発生要因の究明や障害予防、再発予防が最終的な目標となる。目標遂行のためには、身体の機能・構造の理解からスポーツ外傷・障害に関する病態理解、および理学療法目的・効果・リスク等の知識が必須となる。合わせて、スポーツ競技そのものの競技特性や特徴を知ること重要となる。</p> <p>本授業では、代表的なスポーツ外傷・障害を取り上げ、その病態を理解し、具体的な理学療法について学ぶ。加えて、傷害の発生要因となるアライメント、筋のタイトネス、関節弛緩性、スポーツ動作についても理学療法、コンディショニングという側面から教授する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ傷害の理学療法[第2版] 理学療法MOOK」 三輪書店。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング [上・下巻] 外傷学総論／検査・測定と評価」 文光堂。</p> <p>「競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング」 文光堂。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席、レポート、課題取り組み能力などを総合的に判断。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ傷害（外傷・障害）概論  第2回 上肢のスポーツ傷害について（機能解剖、測定・評価）  第3回 上肢のスポーツ傷害に対する理学療法（1）  第4回 上肢のスポーツ傷害に対する理学療法（2）  第5回 下肢のスポーツ傷害について（機能解剖、測定・評価）  第6回 下肢のスポーツ傷害に対する理学療法（1）  第7回 下肢のスポーツ傷害に対する理学療法（2）  第8回 体幹のスポーツ傷害について（機能解剖、測定・評価）  第9回 体幹のスポーツ傷害に対する理学療法（1）  第10回 体幹のスポーツ傷害に対する理学療法（2）  第11回 スポーツ理学療法（物理療法）  第12回 スポーツ理学療法（マッサージ）  第13回 スポーツ理学療法（テーピング）  第14回 スポーツ理学療法（テーピング）  第15回 総括</p>				



科目名	スポーツコーチ学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	吉鷹 幸春			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツにおけるプロモーションリーダーとしての資質・能力の向上を図る。  スポーツコーチングの本源的意味について歴史的、社会的背景を踏まえた上で、指導者としていかに選手を育成すべきか、指導者自身どこに向かっていくのかといった、指導者コーチングフィロソフィーについて、競技スポーツに焦点をあて、コーチングの戦略モデルを用いて理論的に考える。さらに、コーチングに不可欠なプレゼンテーションやコミュニケーションスキルについて、より高いレベルで実際の現場で用いることのできる内容に関して教授する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ・コーチング学」 レイナーマートン著 西村書店。</p>				
<p>参考文献</p> <p>未定。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業への取り組み状況（10%）、討論への参加状況（40%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 コーチングの歴史的背景、意義、役割  第3回 競技別、地域別のコーチ養成制度  第4回 コーチングの戦略モデル  第5回 コーチング方法（明示的手法と暗示的手法）  第6回 コミュニケーションスキル  第7回 プレゼンテーションスキル  第8回 コンセプチュアルスキル  第9回 コーチングスキル  第10回 コーチの資質  第11回 効果的な学習促進  第12回 コーチング能力評価法  第13回 コーチング対象別のガイドライン  第14回 リスクプレベンションとリスクマネジメント  第15回 おわりに</p>				

科目名	スポーツ情報学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	杉田 正明			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ情報は、収集することから始まる。近年、情報通信技術の活用で国内外のスポーツに関する情報やスポーツ現場の映像など様々なスポーツ情報を収集することが手軽になった。本講座は、そのようなスポーツ情報を分類・整理し、体系化するための実践的な知識や技法を学ぶ。主に扱う情報は、スポーツの競技現場において有効に活用され競技力の向上に直結する競技スポーツの情報である。しかし、スポーツ参加の形態が多様になっている中、情報の提供も様々な対応が必要とされている。例えば、優れたプレーやゲーム展開の面白さに感動する「見るスポーツ」に対する情報についても考える。</p>				
<p>教科書</p> <p>未定。</p>				
<p>参考文献</p> <p>未定。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>評価は、授業への取り組み意欲、発表、レポート内容から総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>ゲーム分析や動作分析を行いたい競技種目があること。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 スポーツ情報の意義と重要性  第3回 スポーツテクノロジー  第4回 スポーツ現場における映像情報  第5回 ゲーム分析ソフトの機能とその活用  第6回 チームスポーツにおけるゲーム分析  第7回 動作分析ソフトの機能とその活用  第8回 動作分析によるコーチング支援  第9回 スポーツ情報の共有  第10回 スポーツ情報戦略  第11回 スポーツ統計（戦術解析）  第12回 スポーツ統計（選手評価）  第13回 課題発表および討論  第14回 課題発表および討論  第15回 まとめ</p>				

科目名	障害者スポーツ医科学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻1年次
担当者名	橘 香織			
<p>本科目のねらい</p> <p>障害者スポーツは多岐にわたり、そこに参加する人々の障害特性もまた多様である。本科目では、障害がある人がスポーツする場合に知っておくべき基礎疾患と障害特性についての医科学的知識について学び、スポーツ指導の際に留意すべき点について理解を深める。また、障害者がスポーツをすることによりどのような効能を得られるか、とともにスポーツ外傷・傷害や二次的障害についての知見を紹介し、発生予防のために必要な対策について検討する。</p>				
<p>教科書</p> <p>必要に応じて配布、紹介する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>必要に応じて配布、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>評価は、授業への取り組み状況(30%)、授業内における討論での発言・参加状況(30%)、レポート(40%)を元にして行う。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>障害者スポーツに関わったことが無い方も、想像力を豊かに働かせ、どうしたらその人の可能性と選択肢を広げることができるか、を一緒に考えてみてください。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 対象者の疾患と障害の理解（1）脊髄損傷  第3回 対象者の疾患と障害の理解（2）中枢神経疾患  第4回 対象者の疾患と障害の理解（3）切断  第5回 対象者の疾患と障害の理解（4）視覚障害・聴覚障害・内部障害  第6回 対象者の疾患と障害の理解（5）知的障害・精神障害  第7回 競技で用いる車椅子  第8回 クラス分けの概念と実際  第9回 障害者にとってのスポーツの効能  第10回 車椅子スポーツにおけるスポーツ外傷・傷害  第11回 車椅子スポーツにおける二次的障害  第12回 障害者スポーツに対する医・科学・情報サポート  第13回 障害者スポーツのメディカルチェック  第14回 障害者スポーツとドーピング  第15回 まとめ</p>				

科目名	ヘルスケア特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	片山 富美代			
<p>本科目のねらい</p> <p>健康維持と増進のメカニズムをこころと身体の関係から理解する。さらに、行動科学の視点から、健康行動と行動変容に関する知識と技術を理解し、人々が幸せになるための資源としての健康維持や増進への関わりの意義とその方法について考える。</p>				
<p>教科書</p> <p>特になし。必要に応じて資料を配布する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>随時授業の中で紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>課題発表を含めた授業への取り組み（50%）とレポート（50%）で評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>知識の習得のみならず、自分と他者の体験を活かしながら、個人のみならず社会全体における健康について考えたいと思う学生の履修を望みます。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 個人にとっての健康・社会にとっての健康の意味と健康の評価  第2回 ヘルスプロモーション的思考からみた健康と介入：Precede-Proceed model、健康日本21  第3回 健康と病気におけるこころと身体の関係  第4回 ストレスマネジメント：ストレス理論、ストレスコーピング  第5回 メンタルヘルス：こころの健康とは、こころの健康の評価  第6回 行動変容：行動科学の基礎  第7回 行動変容：人間の行動と関連要因  第8回 ライフスタイルと健康：スポーツ習慣と健康  第9回 健康行動（保健行動、疾病行動、患者行動）  第10回 ヘルスコミュニケーション  第11回 健康行動理論（1）  第12回 健康行動理論（2）  第13回 健康相談・運動支援の基本技術（1）  第14回 健康相談・運動支援の基本技術（2）  第15回 まとめ</p>				

科目名	体育科教育学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	松本 格之祐			
<p>本科目のねらい</p> <p>本講義は、体育科教育における様々な事柄を総合的に学修し、体育科教育に関する知見を広げ深めることを主要なねらいとする。具体的には、体育を支えている制度的条件としての憲法・教育基本法・学習指導要領の関連、体育科教育に関する知識を深め、体育科教育における諸問題について理解する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「新版・体育科教育学入門」高橋健夫他編著 大修館書店。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席、受講態度、課された課題に対する発表、レポート等を総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>教員を強く志望する者であること。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 体育科教育学の成立の意味と意義  第2回 教科体育の法的根拠  第3回 体育科教育学の中心的内容 (1) 歴史的変遷をふまえた目標論  第4回 体育科教育学の中心的内容 (2) 認識と達成を保證する内容論  第5回 体育科教育学の中心的内容 (3) 教育学的視点からの学習指導論および学習形態論  第6回 体育科教育学の中心的内容 (4) 説明責任に応えうる学習評価のあり方  第7回 体育科教育学の基礎的内容 (1) 相互作用およびマネジメントについての研究の現状  第8回 体育科教育学の基礎的内容 (2) 計画的・方略的な体育科教育のあり方  第9回 授業分析・授業評価の意味と方法  (1) 主観的分析・評価の重要さと客観的分析・評価の必要性  第10回 授業分析・授業評価の意味と方法  (2) 多様な視点からの授業分析・授業評価の方法  第11回 教科体育における運動有能感の意味と価値  第12回 生涯スポーツの考え方と体育科教育の関連  第13回 運動領域論・運動種目論からの体育科教育学の脱却  第14回 学習指導要領の歴史的検討と今後の体育科教育  第15回 体育科教育学の展望 ～世界的な流れをふまえて～</p>				

科目名	保健科教育学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	井筒 次郎			
<p>本科目のねらい</p> <p>我が国の健康課題の変遷と学校における保健科教育の目標、内容の変遷等から保健科教育の意義と目的について理解を深めるとともに、現代の中学校、高等学校における保健科教育、及び健康に関する指導の問題点を分析しつつ、保健科教育に関する知識を深め、保健科教育における諸問題について理解する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「中学校学習指導要領解説『保健体育編』」。  「高等学校学習指導要領解説『保健体育編・体育編』」。  「保健科教育の基礎」吉田瑩一郎編著 教育出版。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「第4次国民健康づくり対策～健康日本21（第2次）～」。  「体力・スポーツに関する世論調査」。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業への出席状況、及び課題への取り組み、発表の成果等を勘案して評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>教員である以上、常に良い授業を展開したいと切望することが必要である。授業を大切にする教員こそが学校を変革できる原動力となる。こうした考えを持って本授業を履修していただきたい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 我が国の国民健康づくり運動と保健科教育、健康に関する方法論  第2回 学校教育の目標と保健科教育とのかかわり  第3回 保健科教育の意義とその成立過程  第4回 教育課程における保健科教育  第5回 保健科教育の目標の変遷  第6回 保健科教育の内容の変遷  第7回 中学校における健康・安全の課題と保健科教育、健康に関する方法論  第8回 高等学校における健康・安全の課題と保健科教育、健康に関する方法論  第9回 中学校、高等学校における保健の教科書の変遷  第10回 保健科教育、健康に関する指導の推進に係る手引、資料等の分析  第11回 中学校における保健科教育、健康に関する指導推進学校の共通項  第12回 高等学校における保健科教育、健康に関する指導推進学校の共通項  第13回 学校評価と保健科教育、健康に関する方法論  第14回 今後の保健科教育、健康に関する提言  第15回 本授業のまとめ</p>				

科目名	身体とメディア特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	並木 浩一			
<p>本科目のねらい</p> <p>現代のスポーツや身体に関する言説は、20世紀当初から始まった「メディアによる身体観」の影響下にある。その点を、様々な様態・言語による多くのメディア資料を時系列的に読み解いていくことによって理解し、“身体を語るメディア”に対するリテラシーを最大限に高めることができるだろう。現代メディア論と身体論の交錯する場での演習ということもできる。</p>				
<p>教科書</p> <p>初回の講義で指示する。また、オリジナルのプリントを用意する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「Sport et presse en France」 Evelyne Combeau-Mari  「Histoire du sport」 Thierry Terret  「Le sport dans la presse communiste」 Michaël Attali、 Evelyne Combeau-Mari  「La Presse et le sport sous l'occupation」 Jacques Seray 等。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>講義への貢献（40%）と期末レポートの成績（60%）で評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>オリンピック関係の資料等を読む関係上、スポーツに関する英語・フランス語の知識があることが望ましい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 身体をめぐる言説の検証（古代ヨーロッパから近代）  第2回 身体をめぐる言説の検証（近代から現代）  第3回 ヨーロッパにおける近代スポーツの成立とその言説  第4回 黎明期の近代オリンピックとマス・メディア  第5回 クーベルタン男爵のメディア表象  第6回 メディアの世紀とスポーツの価値  第7回 20世紀の“身体”に向けられたまなざしの変化  第8回 踊る身体 バレエ・リュスの時代  第9回 第1次世界大戦 戦う身体とメディア  第10回 アプレ・ゲール期のスポーツ観の変化  第11回 全体主義とスポーツ  第12回 スポーツと映像（1）レニ・リーフェンシュタールの戦略  第13回 スポーツと映像（2）オリンピックと映画、テレビ  第14回 写真とスポーツ “決定的瞬間”が捉え直す身体  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ心理学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	渋谷 崇行			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ心理学研究の理論を理解する。また、研究成果の実践への応用について討論する。本講座は、スポーツ行動に関わる高度な専門知識と実践力を備えた人材を育成することをねらいとする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「最新スポーツ心理学 その軌跡と展望」(2004) 日本スポーツ心理学会編。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業内で適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準(必須項目)</p> <p>レポート(40%)、討論やグループワーク、課題への参画(60%)。</p>				
<p>履修条件(学生への要望)</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ心理学の研究とは  第2回 スポーツ参加(1) 動機づけ  第3回 スポーツ参加(2) 目標設定  第4回 スポーツ参加(3) ストレス  第5回 スポーツ参加(4) 心理的介入の実際  第6回 運動と健康(1) 健康への貢献  第7回 運動と健康(2) 運動行動の規定要因  第8回 運動と健康(3) 運動行動の継続  第9回 運動と健康(4) 心理的介入の実際  第10回 社会心理(1) コミュニケーション  第11回 社会心理(2) グループダイナミックス  第12回 社会心理(3) ライフスキル  第13回 社会心理(4) 心理的介入の実際  第14回 実践現場の課題(1) 幼少年スポーツ・運動部活動  第15回 実践現場の課題(2) 中高齢者・障がい者</p>				



科目名	生涯スポーツ特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	野村 一路			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ基本法の策定により、我が国におけるスポーツ振興の理念、目的は明確になってきたものの、生涯にわたってスポーツに参画することのできる生涯スポーツ社会の実現には、まだまださまざまな課題があり、その現状を理解する中から、解決に至る方策が見えてくるはずである。この授業のねらいはそれらの現状と課題をよく理解し、解決に向けての糸口をディスカッションを通じて理解し、検討していく。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ白書」(2011) 笹川スポーツ財団。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業時に適宜説明する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>成績評価は、授業への出席とディスカッションへの参加状況(50%)、レポート(50%)を基にする。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>生涯スポーツ社会実現に向けて策定された、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法、スポーツ基本計画などを見直し、各自でそれぞれ算定の背景をよく理解したうえで受講をして欲しい。また様々なメディアを通して、現代社会における運動やスポーツに関する様々な話題をよく見たうえで履修してほしい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 授業ガイダンス  第2回 スポーツ基本法についてその理念やスポーツの定義を理解する  第3回 日本人のスポーツ参加(参画)動向について理解する  第4回 体育・スポーツ施設の現状を理解する  第5回 スポーツクラブの現状と課題、非営利、営利団体共にクラブ組織の在り方について検討し理解する  第6回 スポーツの人的資源のについて、特にコーチを含む指導者・支援者、スポーツボランティアやスポーツマネジメント領域での人的資源の現状を理解する  第7回 プロスポーツを含むトップスポーツに関して検討し、トップアスリートの強化・育成の現状と課題を理解する  第8回 生涯スポーツ振興施策の基本と行政の仕組みや財源の問題、地方自治の在り方などを理解する  第9回 様々なスポーツ振興のための補助金、助成金制度について理解する  第10回 日本スポーツ振興センターが実施している助成制度に着目し、法的根拠も含めてスポーツ振興基金、スポーツ振興くじ助成を理解する  第11回 スポーツ振興に向けて様々な財源確保を、他国との比較から検討する  第12回 各種スポーツイベントを分類しその意味や意義を理解する  第13回 スポーツに関する情報とメディアについて理解する  第14回 生涯スポーツ社会実現に向けての多様な現状と課題を踏まえ、これからの生涯スポーツ振興に必要な事項について検討する  第15回 授業のまとめとレポート課題の説明</p>				

科目名	スポーツ政策学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	田中 暢子			
<p>本科目のねらい</p> <p>2020東京オリンピック・パラリンピックの招致が決定し、スポーツに対する機運が高まりつつある。こうした社会背景のもと、今やスポーツは我が国の政策意向が表れやすいのではないか。たとえば、なぜスポーツは推進されるのか。スポーツは推進されるべきものなのか。スポーツを取り巻く社会、文化、経済的因子を踏まえながら、世界のスポーツと我が国のスポーツがどのように交わり発展してきたのかについて考える。</p>				
<p>教科書</p> <p>未定。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「スポーツ政策論」(2011) 齋藤健司、真山達志 &amp; 横山勝彦 成文堂。  「Elite sport development: Policy learning and political priorities. Routledge.」(2005) Green, M. &amp; Houlihan, B.  「Politics of sports development. Routledge.」(2013) Houlihan, B. &amp; White, A.</p>				
<p>成績評価の方法と基準 (必須項目)</p> <p>出席確認のためのリアクションペーパー (50%) と最終レポート (50%) 。</p>				
<p>履修条件 (学生への要望)</p> <p>スポーツの動向を読み取る上で、政策学的視点は欠かせない。国際動向を理解するにあたり、英語文献も積極的に読むことを期待する。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ政策学とは  第2回 スポーツ政策学の必要性と視点  第3回 政策過程を読み取る (1) 分析フレームワークと理論的枠組み  第4回 政策過程を読み取る (2) アクターと利益集団～国統括競技団体とスポーツ  第5回 政策過程を読み取る (3) 権力と政策構造  第6回 政策と社会、文化、経済因子  第7回 スポーツと政策 (1) スポーツ・フォー・オール政策とエリートスポーツ政策  第8回 スポーツと政策 (2) オリンピックと政治  第9回 スポーツと政策 (3) 健康を促進する社会とスポーツ  第10回 スポーツと政策 (4) マイノリティとスポーツ  第11回 スポーツと政策 (5) パラリンピックと世界  第12回 世界とスポーツ (1) 国際比較研究の意義  第13回 世界とスポーツ (2) 西欧諸国におけるスポーツ  第14回 世界とスポーツ (3) アジア地域におけるスポーツ  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ社会学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	吉田 毅			
<p>本科目のねらい</p> <p>多様化、複雑化する現代スポーツに関する理解を深めるために、様々な認識論的、方法論的な立場を備える社会学の視点は有効である。本科目では、現代スポーツの諸相とそこで惹起されている諸問題について社会的に掘り下げていく。それを通じて、現代スポーツを多角的に捉え得る能力を高めていく。ここでは、現代スポーツにおける次の3つの主要な側面に着目し、各々に関して重要とみられるテーマについて考究する。①スポーツの高度化の側面としてアスリートのキャリア形成論、②スポーツの大衆化の側面としてスポーツプロモーション論、③みるスポーツの側面としてメディアスポーツ論。授業は講義と文献講読（受講生個々が担当する文献を要約し、プレゼンテーションを行う。その上で全員で討論する）を併用しながら進める。</p>				
<p>教科書</p> <p>特に指定しない。適宜、文献ないし資料を配布する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「現代スポーツの社会学」南窓社。  「競技者のキャリア形成史に関する社会学的研究」道和書院。  「スポーツプロモーション論」明和出版。  「現代メディアスポーツ論」世界思想社。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>課題・レポート（40%）、文献要約とプレゼンテーション（40%）、発言の積極性・適切性（20%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>日頃からスポーツに関する情報を読書やメディア等を通じて得られたい。授業には問題意識をもって積極的に臨まれたい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 アスリートのキャリア形成論（1）ドロップアウトとバーンアウト  第3回 アスリートのキャリア形成論（2）現役引退とセカンドキャリア  第4回 アスリートのキャリア形成論（3）キャリア移行  第5回 アスリートのキャリア形成論（4）現代社会と問題アスリート  第6回 アスリートのキャリア形成論（5）身体障害者  第7回 スポーツプロモーション論（1）スポーツ政策  第8回 スポーツプロモーション論（2）生涯スポーツ  第9回 スポーツプロモーション論（3）地域スポーツ  第10回 スポーツプロモーション論（4）アダプテッドスポーツ  第11回 メディアスポーツ論（1）スポーツとメディアの関係性  第12回 メディアスポーツ論（2）活字メディア  第13回 メディアスポーツ論（3）映像メディア  第14回 メディアスポーツ論（4）スポーツアニメ  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツマネジメント学特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	恩田 哲也			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ・ビジネスでは、お金に対して物物的な対価ではなく、経験といった形にならないサービスが提供される場合が主である。そのような視点から、スポーツを題材に、マーケティング（売れる仕組み）、マネジメント（効率性）について理解する。マーケティング戦略、スポーツ消費者行動のメカニズム、企業のスポーツスポンサーシップ等についての知識を習得する。専門家・研究者としてスポーツに関して、運営・管理的な方向から、マネジメント要素を確立させ発展できる意識を持てることを目標とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツマーケティング」原田宗彦、藤本淳也、松岡宏高 大修館書店。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「スポーツ産業論第5版」原田宗彦 杏林書院。  「図解スポーツマネジメント」山下秋二、原田宗彦 大修館書店。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業への出席（30%）、授業・討議への取り組み状況（30%）、課題（40%）を原則をもとに総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>基本的にテキストをもとに講義を行い、その後論議等を行う。よって授業前に事前準備としてテキストを読み良く理解する必要がある。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 スポーツマーケティングとは？  第3回 スポーツビジネス  第4回 スポーツ消費者とは？  第5回 スポーツプロダクト  第6回 スポーツプロダクト（商品価値、値段）  第7回 「する」スポーツのベネフィット  第8回 「観る」スポーツのベネフィット  第9回 スポーツマーケティング・プラン  第10回 スポーツ消費者の意思決定  第11回 スポーツスポンサーシップ  第12回 プロモーション  第13回 ブランディング  第14回 スポーツマーケティングリサーチ  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ文化人類学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	大野 哲也			
<p>本科目のねらい</p> <p>本科目の目的は、スポーツの過去（歴史的文脈）と現在（私たちが生きる今）を往復しつつ、現代社会におけるスポーツの文化・社会的意義を人類学的な視座から問い直すことである。</p> <p>グローバル化が劇的に進行する現代世界において、オリンピックや国際大会の隆盛を見ても理解できるように、スポーツはもはや単に「スポーツ＝身体活動」ではなく、国際平和の手段として、あるいは経済活動としての役割を担うというように、多機能化・多目的化する複合的实践へと変化している。スポーツの社会的機能が大きく変化していると思われるのだ。</p> <p>こうしたスポーツを取り巻く状況変化を前提にして、スポーツと特定の「社会問題」を歴史的背景を加味して関連づけなおし、人類学的に考察を進めていく。それによって現代社会におけるスポーツの新たな可能性を展望してみたい。</p>				
<p>教科書</p> <p>適宜紹介する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席点と課題（45%）、レポート（55%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>他の学生の迷惑となる行為は厳禁。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 導入：「スポーツ人類学」とはなにか  第2回 政治とスポーツ オリンピックを事例として  第3回 国家の形成とスポーツ 国民国家をつくる道具  第4回 植民地主義とスポーツ 統治の技法の核心  第5回 身体知とスポーツ 知識とはなにか  第6回 ハビトゥスとスポーツ 日常実践を考える  第7回 人種とスポーツ 進化論再考  第8回 ジェンダーとスポーツ 生物学的性と社会的性のはざまを考える  第9回 障害とスポーツ バリアフリー社会を目指して  第10回 地域おこしとスポーツ まちの発展を担う  第11回 ツーリズムとスポーツ 異業種との出会い  第12回 メディアとスポーツ 表象性を考える  第13回 ボランティアとスポーツ 国際貢献としての役割  第14回 教育とスポーツ 「規律・訓練」的な見方を超えて  第15回 まとめ：新しい時代を担うものとしてのスポーツの可能性  ●状況に応じて講義内容を変更することがある</p>				

科目名	身体と文化特論			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	今泉 隆裕			
<p>本科目のねらい</p> <p>暗い夜道を歩いている。シルエットだけではなく、その歩き方や、何気ないしぐさから男なのか、女なのかを我われは見分けることができたりする。それはなぜだろうか。背丈や格好にかかわらず、しぐさなど、動作を見るだけで自文化に属する人間か、あるいは異文化に属する人間か、我われは判別できる。それはなぜだろうか。</p> <p>社会人類学者であるマルセル・モース（1838 - 1925）は、普段は意識することのない振る舞いや、しぐさが、実は文化（階層を含む）によって異なり、文化によって形成されたものであるとして、それを「身体技法」と名付けた。つまり、何気ない歩き方やしぐさといった身体活動の多くは、運動力学的に説明できるものではないということになる。それぞれの文化圏のなかで、あるいは同一文化圏内でも階級や性差によって異なる動作やしぐさが培われ、形成されたことになるといえるのである。しかも、それぞれの「身体技法」の相違は、それぞれの文化圏で形成される身体活動文化（運動競技等）の形成にも大きく寄与していることはいままでのま。</p> <p>そこで本科目では、こうした「身体技法」に関する先行論文を取り上げて紹介する。時折、それらの基本文献を輪読することにもなる。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度、紹介する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>あまり固定観念にとらわれない態度で、積極的に講義（あるいは輪読）等に臨むよう心がけて欲しい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 身体技法について（1） マルセル・モースの「身体技法」①「身体技法」をめぐって</p> <p>第3回 身体技法について（2） マルセル・モースの「身体技法」②同上</p> <p>第4回 身体技法について（3） マルセル・モースの「身体技法」③同上</p> <p>第5回 身体技法について（4） 武智鉄二の諸論紹介と検討①常歩の諸説をめぐって</p> <p>第6回 身体技法について（5） 武智鉄二の諸論紹介と検討②同上</p> <p>第7回 身体技法について（6） 戸井田道三の諸論紹介と検討①『演技』をめぐって</p> <p>第8回 身体技法について（7） 戸井田道三の諸論紹介と検討②同上</p> <p>第9回 身体技法について（8） 野村雅一の諸論紹介と検討①しぐさをめぐって</p> <p>第10回 身体技法について（9） 野村雅一の諸論紹介と検討②同上</p> <p>第11回 「身体技法」と身体活動の文化（1） 水泳 等</p> <p>第12回 「身体技法」と身体活動の文化（2） 伝統スポーツ 相撲 等</p> <p>第13回 「身体技法」と身体活動の文化（3） 伝統演劇 能楽 等</p> <p>第14回 「身体技法」と身体活動の文化（4） 「伝統」概念の再検討 橋本裕之の諸説紹介と検討</p> <p>第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ法学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	入澤 充			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツは、競技団体が定めた規則によって運営、実施されている。競技規則に違反をしなければ、例えば試合中に相手選手の行為で負傷をした場合でも当事者同士が危険を同意して行っているために、加害相手の違法性を問わないという原則がある。しかし、練習中に規則の制限を超えた行為で負傷したり、重篤な事態、死亡に至った場合には、法的責任を問われることがある。本授業の前半は、文化としてのスポーツが法とどのようにかわるのかを理解し、後半はスポーツ活動中の事故と法的責任について考える。</p>				
<p>教科書</p> <p>「詳解 スポーツ基本法」日本スポーツ法学会編 成文堂。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「スポーツにおける真の勝利－暴力に頼らない指導」菅原哲朗・望月浩一郎他 エイデル研究所。その都度、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>評価は、日常点＜出席及び授業での討論参加状況＞（50％）とレポート（50％）を基にして行う。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>一方的な講義方法はとらない。学生の積極的参加によって授業効果を高めていきたいので、発言は進んで欲しい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス スポーツ法学入門 スポーツ法学とは何か スポーツ法学の研究領域</p> <p>第2回 スポーツの歴史的意義（日本のスポーツと学校体育・社会体育の役割について）</p> <p>第3回 スポーツ競技規則の特色（スポーツ固有法）</p> <p>第4回 スポーツに関する法律の理解（憲法・教育基本法・学校教育法・社会教育法）</p> <p>第5回 スポーツ基本計画とスポーツ立国戦略</p> <p>第6回 スポーツ基本法の理解（スポーツ権について、学説からの検討）</p> <p>第7回 スポーツ基本法の理念（文化としてのスポーツ、権利としてのスポーツ）</p> <p>第8回 スポーツ基本法と指導上の責任（教育責任と法的責任）</p> <p>第9回 スポーツ紛争・事故処理の特殊性（危険の同意・本質的危険性：ママさんバレー事件、ソフトボール親睦試合中事故判例から検討）</p> <p>第10回 スポーツ事故と不可抗力（キャンプ中遭難事故、山岳遭難事故、サッカー試合中落雷事故判例から検討、スポーツ事故と紛争処理・裁判所の判断基準）</p> <p>第11回 スポーツ事故と賠償制度、災害給付制度（学校事故からの考察）</p> <p>第12回 スポーツ事故と不法行為責任（裁判所の判断基準とスポーツ指導上の安全対策）</p> <p>第13回 学校スポーツ部活動の教育責任と法的責任、その問題点と課題（指導者の責任）</p> <p>第14回 スポーツとハラスメント（セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、指導者の体罰と法的責任）</p> <p>第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ哲学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1 年次
担当者名	瀧澤 康二			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ哲学は、「スポーツ」概念を学問の対象とする諸科学の原理・原則を理解しようとするものです。</p> <p>したがって、本教科は「スポーツ」及びそれに関連する諸概念（体育、体操、武道、等々）のもつ現代的意味とそれらの理念について深く理解すると同時にスポーツについて「哲学する」習慣を身につけることを主たるねらいとします。</p>				
<p>教科書</p> <p>授業開講時にはその都度、講義資料を準備します。</p>				
<p>参考文献</p> <p>本教科では特定の参考文献を提示しません。あらゆる書物、先行研究（身体知も含む）が参考書になります。予習・復習の糧にしてください。そして、批判（この場合、学問と同義）の習慣を身につけてください。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席（2/3以上の出席が最低条件）による評価：（50%）。</li> <li>2. レポートによる評価：（30%）。</li> <li>3. 授業態度（積極的な議論への参加）：（20%）。</li> </ol>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>この教科は、講義を基本としますが、受講生におかれては講義内容に対し、常に疑問を抱きながら受講され、理解し難い点があればその場で挙手をし、質問あるいは反論をしてください。自ら「哲学する（考える）」よう努力してください。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、評価について、注意事項、学問とは？）</p> <p>第2回 スポーツ哲学について</p> <p>第3回 スポーツとは？（その概念と理念）</p> <p>第4回 スポーツ研究について</p> <p>第5回 スポーツの現代的意味</p> <p>第6回 スポーツと文化</p> <p>第7回 オリンピズム（Olympism）とオリンピック運動（Olympic movement）</p> <p>第8回 スポーツ規範論、スポーツ倫理学、スポーツの価値論</p> <p>第9回 「健康」概念について</p> <p>第10回 アンチ・ドーピング運動について</p> <p>第11回 あそびと娯楽について</p> <p>第12回 スポーツの美学について</p> <p>第13回 質疑応答</p> <p>第14回 質疑応答</p> <p>第15回 まとめ（評価も含む）</p>				



科目名	スポーツ行政学特論			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	吉田 勝光			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツは、人間の豊かで、健康的な生活を支える重要な役割を果たす。現代社会にあっては、人々は、行政と無関係には暮らすことができず、人々の楽しむスポーツも例外ではない。本科目では、人々のスポーツライフにかかわる行政について、どのような組織が関わり、それがどのような機能を有するかを検討する。と同時に、行政の行うスポーツ政策の展開がどのように行われているか、どのような課題を抱かえているか、その解決策はないか、今後どのように展開されて行くべきかを考えていく。到達目標：これらを実施することにより、スポーツ行政の現状と課題を理解することができるとともに、自らの問題として考えることができるようになる。講義概要：一般的な行政のあり方を最初に学んだ上で、政策を実行するスポーツ行政の組織とその手法を政策の内容とともに検討していく。後半には、諸外国の政策についても視野を広げて検討する。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ政策の現代的課題」(2008) 諏訪伸夫他編 日本評論社。  「スポーツ政策論」(2011) 菊幸一他編 成文堂。  「スポーツ六法」(2014) 小笠原正他編 信山社。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「地方自治体のスポーツ立法政策論」(2007) 吉田勝光 成分堂。  「詳解スポーツ基本法」(2011) 日本スポーツ法学会編 成文堂。</p>				
<p>成績評価の方法と基準(必須項目)</p> <p>講義、文献の検討、討論への参加・関与状況(50%)、研究成果(レポート等)の成績(50%)によって評価する。</p>				
<p>履修条件(学生への要望)</p> <p>予め指定する文献の他に、テキスト等に掲げられている諸文献も事前に収集・学習しておくこと。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 日本の行政のあり方  第3回 日本のスポーツ行政の現状と課題  第4回 日本国家的行政組織の現状と課題  第5回 日本の地方行政組織の現状と課題  第6回 公共行政組織以外の行政的活動団体の現状と課題  第7回 行政による政策手法(1) 法律制定による手法  第8回 行政による政策手法(2) 条例制定による手法  第9回 行政による政策手法(3) 行政計画による手法  第10回 行政による政策手法(4) 行政指針による政策実現  第11回 スポーツ団体の自主決定  第12回 諸外国のスポーツ行政・政策(1)  第13回 諸外国のスポーツ行政・政策(2)  第14回 行政が担う国内及び国際的イベントの開催  第15回 まとめ</p>				

科目名	学校スポーツ演習 I			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1 年次
担当者名	松本 格之祐			
<p>本科目のねらい</p> <p>この演習 I では、小学校の体育授業から得られる「教師の相互作用行動・形成的授業評価・期間記録・学習従事・観察者チェックリスト」の内容と方法について理解し、多方面からの授業文責と授業評価が行えるようにする。</p> <p>また、上記を通して、体育授業を担当する教師としての力量形成だけでなく、授業を観察・評価できる研究者としての資質の向上を図る。</p>				
<p>教科書</p> <p>「体育授業を観察評価する」高橋健夫編著 明和出版。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席、受講態度、担当分析の適切さ、レポート等を総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>教員を強く志望する者であること。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 体育授業の観察評価方法（1）</p> <p>第 2 回 体育授業の観察評価方法（2）</p> <p>第 3 回 マイクロティーチング（インタラクション）の評価</p> <p>第 4 回 模擬授業を観察評価する（1）体づくり運動①低学年</p> <p>第 5 回 模擬授業を観察評価する（2）体づくり運動②中学年</p> <p>第 6 回 模擬授業を観察評価する（3）体づくり運動③高学年</p> <p>第 7 回 模擬授業を観察評価する（4）器械運動①マット運動</p> <p>第 8 回 模擬授業を観察評価する（5）器械運動②跳び箱運動</p> <p>第 9 回 模擬授業（1）～（5）の振り返り、および後半に向けて</p> <p>第 10 回 模擬授業を観察評価する（6）陸上運動①短距離走・リレー</p> <p>第 11 回 模擬授業を観察評価する（7）陸上運動②ハードル走、跳躍運動</p> <p>第 12 回 模擬授業を観察評価する（8）表現・ダンス</p> <p>第 13 回 模擬授業を観察評価する（9）ボール運動①ゴール型</p> <p>第 14 回 模擬授業を観察評価する（10）ボール運動②ベースボール型、ネット型</p> <p>第 15 回 模擬授業（6）～（10）の振り返り、総括的考察</p>				

科目名	学校スポーツ演習Ⅱ			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 2年次
担当者名	井筒 次郎			
<p>本科目のねらい</p> <p>中学校、高等学校における体育、及び保健の授業を実践していく能力を高めるために、より多くの授業を参観するとともに、それらの授業を客観的に分析し、自分の授業実践に活かすことができるようになることが本授業のねらいである。</p>				
<p>教科書</p> <p>「高等学校体育の授業（上巻）」杉山重利他編著 大修館書店。  「めざそう保健体育教師」杉山重利他編著 大修館書店。  「体育授業を観察評価する」高橋健夫編著 明和出版。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「中学校学習指導要領解説『保健体育編』」。  「高等学校学習指導要領解説『保健体育編・体育編』」。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業への意欲、課題への取り組み状況、発表の成果等を総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>良い授業を展開するためには、より多くの良い授業を参観することが必要です。意欲的に多くの授業を参観できる機会を持ってほしいと思います。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 現代の中学生の健康・体力に係る課題（資料分析）  第2回 現代の高校生の健康・体力に係る課題（資料分析）  第3回 中学校の教育計画における体育に関する方法論の位置づけ（資料分析）  第4回 高等学校の教育計画における体育に関する方法論の位置づけ（資料分析）  第5回 中学校における体育授業の現状と課題（発表）  第6回 高等学校における体育授業の現状と課題（発表）  第7回 中学校における体育に関する方法論の現状と課題（発表）  第8回 高等学校における体育に関する方法論の現状と課題（発表）  第9回 中学校における体育及び体育的活動推進学校の特徴（発表）  第10回 高等学校における体育及び体育的活動推進学校の特徴（発表）  第11回 中学校における体育に関する方法論の問題解決のポイント（発表）  第12回 高等学校における体育に関する方法論の問題解決のポイント（発表）  第13回 中学校における体育に関する方法論への提言（発表）  第14回 高等学校における体育に関する方法論への提言（発表）  第15回 本演習のまとめ</p>				

科目名	スポーツ健康科学演習 I			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	桜井 智野風・廣瀬 立朗・小山 桂史			
<p>本科目のねらい</p> <p>修士論文を作成するための実験や計画に必要な基礎知識を習得し、スポーツ健康科学領域における実験理論と技術を修得する。特に本講では、運動生理・生化学分野における科学実験とスポーツバイオメカニクス分野における動作・行動分析実験に焦点をあて、研究するために必要な各種の実験手段やデータ処理法を実習を通じて習得することを目的とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業にて随時配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>平常点（20%）、小レポート（40%）、授業での発表（40%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>提示された課題について予習すること。また行った実験上の注意点などを復習し、よく理解しておくこと。</p>				
<p>授業計画</p> <p>オリエンテーション</p> <p>第1回 スポーツ科学における実験とは（桜井智野風）</p> <p>運動生理・生化学実験</p> <p>第2回 実験機器の取扱いとメンテナンス（廣瀬立朗）</p> <p>第3回 実験動物の取り扱いと生物材料の調整法（廣瀬立朗）</p> <p>第4回 組織を用いた実験法（廣瀬立朗）</p> <p>第5回 タンパク質の分離、精製、定性および定量法（廣瀬立朗）</p> <p>第6回 DNAおよびRNAの抽出と精製法（廣瀬立朗）</p> <p>第7回 生化学実験に関するデータのまとめ方と統計法（廣瀬立朗）</p> <p>スポーツバイオメカニクス実験</p> <p>第8回 実験機器の取扱いとメンテナンス（小山桂史）</p> <p>第9回 ビデオ解析を用いた動作分析法（小山桂史）</p> <p>第10回 フォースプレートを用いた地面反力測定法（小山桂史）</p> <p>第11回 ストレインゲージを用いた力の測定法（小山桂史）</p> <p>第12回 筋電計を用いた測定法（小山桂史）</p> <p>第13回 バイオメカニクス実験に関するデータのまとめ方と統計法（小山桂史）</p> <p>研究への応用</p> <p>第14回 スポーツ科学実験における研究応用例と討議（桜井智野風）</p> <p>第15回 総括討議（桜井智野風）</p>				

科目名	スポーツ健康科学演習Ⅱ			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	殖田 友子			
<p>本科目のねらい</p> <p>一般に、栄養状態が悪いときほど栄養改善の効果は劇的である。手術前後の水分補給や消化器疾患のときのおかゆなどの例をあげれば、このことは容易に理解されよう。トレーニングで追い込むときや試合前で緊張のピークにあるときも同様に、運動生理学やスポーツ医学、スポーツ栄養学を用いて実践することで、疲労回復を早めたり記録を伸ばす効果が期待できる。さらに、競技力向上のために身体組成や血液生化学的検査の測定値を変化させようとする場合には、脂肪燃焼トレーニングや筋力トレーニングを行うとともに、食事の量と質、回数や時間設定も変化させることが必要である。以上のようなスポーツ栄養学の知識や技術を、単に知るだけでなく、対象者の種目や状況に合わせて使いこなせるレベルに到達することを目標とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>使用しない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>講義中に指示する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>演習内容で総合的に評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>スポーツ栄養学の知識は予め復習しておくこと。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション ～スポーツ栄養学を使う意義と演習方法を理解する</p> <p>第2回 スポーツ栄養学の知識レベルの確認</p> <p>第3回 運動生理学とスポーツ医学の知識レベルの確認</p> <p>第4回 アスリートの身体組成測定、からだづくりまたは減量計画作成</p> <p>第5回 アスリートのエネルギー消費量 ～推算演習</p> <p>第6回 グリコーゲン補給と回復のための栄養補給計画作成</p> <p>第7回 ビタミン摂取とコンディション ～ビタミンB群補給計画作成</p> <p>第8回 基礎知識の復習テスト、講評</p> <p>第9回 アスリートの水分補給 ～必要量推定と補給計画作成</p> <p>第10回 アスリートの食事計画例の作成</p> <p>第11回 栄養過不足の兆候と対策</p> <p>第12回 種目特性、期分けと食事</p> <p>第13回 遠征や合宿時の食事計画</p> <p>第14回 サプリメントの種類と選択、使用上の注意点</p> <p>第15回 レポート作成と提出、講評</p>				

科目名	スポーツ健康科学演習Ⅲ			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	河崎 賢三・櫻井 拓也			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツにおける傷害・健康被害は多岐多様にわたるため限られた時間では十分な理解を得ることは難しい。そこで本演習では傷害発生後の治療法や理学療法、さらには競技力向上までのコンディショニング、さらには傷害予防のためのメディカルチェックなどを実際に行えるようにテーマを与え、自らが調査、実践、評価することでスポーツ健康科学に関する十分な知識を身につけることを目的とする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「スポーツ医学研修ハンドブック（基礎科目・応用科目）」、「日本体育協会公認アスレチックトレーナーテキスト」。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜必要な文献を配布する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席と課題への取り組み内容（レポート）によって評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>教科書以外のスポーツ医学に関する新聞記事や雑誌、ならびに書物などに目を通し、自学自習できる力を身につけていただきたい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>授業形式はオリエンテーションの後、3つのパートに分け、それぞれのパートにおいて課題となる疾患・傷害を提示しそれに関する検査方法を実施、治療ビデオを閲覧、実際にリハビリテーション手技を行う。各パート終了時に全体討論し、まとめを行う。</p> <p>第1回 オリエンテーション  第2回 各種実習装置の取り扱い説明  第3回 パート1：膝靭帯損傷総論  第4回 パート1：膝靭帯損傷治療法  第5回 パート1：膝靭帯損傷リハビリ実習（筋力測定実習）  第6回 パート1：膝靭帯損傷まとめ  第7回 パート2：肘投球障害総論  第8回 パート2：肘投球障害診断実習（超音波検査装置を用いた評価）  第9回 パート2：肘投球障害予防プログラムの実際（リハビリテーション実習）  第10回 パート2：肘投球障害まとめ  第11回 パート3：内科的障害疲労に関する総論  第12回 パート3：内科的障害疲労に関する検査実習（乳酸測定）  第13回 パート3：内科的障害疲労誘発と回復（実習）  第14回 パート3：内科的障害疲労に関するまとめ  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ健康科学演習Ⅳ			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	星 秋夫 ・ 清水 智美			
<p>本科目のねらい</p> <p>環境が生体に及ぼす影響や新地活動の健康に及ぼす影響についての研究の立案・解析、評価について基本スキルを身に付けるため、各種測定法を修得するとともに、課題解決のための統計学的解析方法、科学論文の読解抄読などが適切に行えるなど研究遂行能力を育成する。</p>				
<p>教科書</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度照会する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>授業の参加状況（50%）、レポート（50%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに  第2回 環境測定（1）PM2.5  第3回 環境測定（2）SOX、NOX  第4回 環境測定（3）気温  第5回 環境測定（4）WBGT  第6回 生理機能測定（1）汗  第7回 生理機能測定（2）唾液  第8回 生理機能測定（3）尿  第9回 生理機能測定（4）血液  第10回 総合実験研究（1）大気汚染と健康  第11回 総合実験研究（2）暑熱環境と健康  第12回 総合実験研究（3）寒冷環境と健康  第13回 総合実験研究（4）低圧環境と健康  第14回 総合実験研究（5）高圧環境と健康  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ文化科学演習 I			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	渋谷 崇行			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ心理学研究の方法を理解する。また、英語による研究発表の方法を習得する。具体的には、各種の心理学研究法を採用した国内外の研究論文を講読することによって、研究法への理解を深める。また、学生自身の卒業論文を英訳することで、欧文抄録や発表資料等を作成し、英語による発表と質疑応答を行う。これらの学習を通じて、確かな方法論に基づいて行われた研究成果を国際学会等で発表するスキルを身につけることができる。このように、本講座は、グローバルな視点で研究活動を行うことができる能力の育成をねらいとする。</p>				
<p>教科書</p> <p>「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」(2001) 南風原朝和他編。</p>				
<p>参考文献</p> <p>授業内で適宜、紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準(必須項目)</p> <p>レポート(40%)、討論やグループワーク・課題への参画(60%)。</p>				
<p>履修条件(学生への要望)</p> <p>特になし。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 スポーツ心理学の研究とは  第2回 量的調査(1) 仮説とその検証  第3回 量的調査(2) 質問紙尺度  第4回 量的調査(3) サンプルと統計的推論  第5回 質的調査(1) 観察法  第6回 質的調査(2) 面接法  第7回 実験研究  第8回 実践研究  第9回 研究の展開  第10回 英語による抄録の作成  第11回 英語によるポスターの作成  第12回 英語による発表資料の作成  第13回 英語による発表と討論の方法  第14回 英語による発表の実際  第15回 英語による討論の実際</p>				



科目名	スポーツ文化科学演習Ⅱ			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	吉田 勝光			
<p>本科目のねらい</p> <p>スポーツ文化に関する諸問題を取上げ、さらに視野を広げるとともに、特化した課題を深く検討することにより、課題に対する追究力（内容面及び研究方法面での）を養成することを目的とする。到達目標：本講義では、特化した課題を検討することにより、スポーツ課題に関する視野が拡大するとともに、追究力が向上する。講義概要：スポーツに関する基本的法律であるスポーツ基本法の制定に至るまでをまずたどり、戦後のスポーツ政策を概観する。その上で、個別のスポーツに関するテーマを取上げ、関係論文を熟読し、検討する。検討する際には、常に、国のスポーツ基本計画を座右に置き、同計画のあり方（今後の改定）を見据える。前半は、国の制度に関して、後半は、地方の制度に関するテーマを配置した。スポーツに限らず、健康政策も重要であることから、同分野に属するものも取上げた。最後に、スポーツに必須の審判制度についても検討することとした。</p>				
<p>教科書</p> <p>テキストは特に指定しない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>その都度、予め指摘する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>講義、文献の検討、討論への参加・関与状況（50%）、研究成果（レポート等）の成績（50%）によって評価する。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>予め指定する文献及び関連文献を事前に熟読してくること。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 戦後のスポーツ政策の展開とスポーツ基本法  第2回 地方自治体の条例によるスポーツ政策の展開  第3回 地方スポーツ推進計画の策定  第4回 公共スポーツ施設の運営  第5回 指定管理者制度  第6回 スポーツ行政と住民訴訟  第7回 総合型地域スポーツクラブ  第8回 リゾートホテルでの健康運動指導の展開  第9回 地域での大学生による健康運動指導  第10回 スポーツ政策と文化政策  第11回 体育・スポーツ事故に関する諸問題  第12回 体育・部活のリスクマネジメント（武道必修化含む）  第13回 スポーツ審判に関する諸問題  第14回 スポーツ仲裁  第15回 まとめ</p>				

科目名	スポーツ文化科学演習Ⅲ			前期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	大野 哲也			
<p>本科目のねらい</p> <p>本科目の目的は、スポーツに関するエスノグラフィーなどのメディアを利用しながら、劇的な変貌を遂げる現代世界における「スポーツの役割」を考察することにある。具体的には、主として、スポーツに情熱を捧げた個人のスポーツ史から、社会のシステムや思想を読み解く。それによって「個人—スポーツ—社会—世界」の関係性を明らかにしながら21世紀という新しい時代に適合的なスポーツのあり方を展望する。</p> <p>すなわち、貧困、格差、差別、紛争というような社会問題を乗り越え、幸福、平等、平和をもたらすものとしての「新しい」スポーツの可能性を探っていく。</p>				
<p>教科書</p> <p>適宜紹介する。</p>				
<p>参考文献</p> <p>適宜紹介する。</p>				
<p>成績評価の方法と基準（必須項目）</p> <p>出席点と課題（45%）、レポート（55%）。</p>				
<p>履修条件（学生への要望）</p> <p>他の学生の迷惑となる行為は厳禁。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 導入：オリエンテーション メディアが象徴するスポーツ</p> <p>第2回 身体障害者の日常 健康について考える</p> <p>第3回 女子プロレス スポーツの真正性について考える</p> <p>第4回 フーリガンとして戦う スポーツとファンの関係性について考える</p> <p>第5回 エドモンド・ヒラリーの挑戦 スポーツと環境保護について考える</p> <p>第6回 アムンゼンとスコット スポーツと自己について考える</p> <p>第7回 ケニア人・アスリートの移動性 スポーツとマーケットについて考える</p> <p>第8回 戦後日本と社交ダンス スポーツと社会的規範について考える</p> <p>第9回 和解の手段としてのスポーツ 南アフリカの事例から考える</p> <p>第10回 高齢化社会とスポーツ 三浦雄一郎の挑戦から考える</p> <p>第11回 国際協力とスポーツ 青年海外協力隊の事例から</p> <p>第12回 呪術とスポーツ 異文化理解の可能性を探る</p> <p>第13回 ローカルボクサーの夢と挫折 スポーツと貧困を考える</p> <p>第14回 社会的地位とスポーツ 国民国家という壁を超えて</p> <p>第15回 まとめと展望 平和と幸福のためのスポーツへむけて</p> <p>●状況に応じて授業内容を変更することがある</p>				

科目名	スポーツ文化科学演習Ⅳ			後期
単位数	2	選択	授業クラス	スポーツ科学専攻 1年次
担当者名	田中 暢子			
<p>本科目のねらい</p> <p>現在、スポーツ政策は日本国内で完結するものではない。そこで本演習では、国内外のいくつかのスポーツ政策を紹介した上で、政策の形成過程を概観する。海外におけるスポーツ政策の検討は、種々の政策の背後にある文化を浮き彫りにすることにもなろう。</p> <p>国際情勢とスポーツ政策の相関性や、諸外国におけるスポーツ政策と日本におけるスポーツ政策の影響関係についても触れる。</p> <p>それらの政策を検討し、問題点を指摘しつつ、スポーツ政策を考える上で必要な基礎知識・学説史もあわせて紹介する予定である。</p>				
<p>教科書</p> <p>特に指定はしない。</p>				
<p>参考文献</p> <p>「現代スポーツ評論 (29) 障害者のスポーツ」 創文企画。文部科学省 (2011) スポーツ政策研究ほか、随時講義内で触れる。</p>				
<p>成績評価の方法と基準 (必須項目)</p> <p>毎回の演習レポート並びにディスカッションへの発言状況 (50%)、最終レポート (50%) により評価する。</p>				
<p>履修条件 (学生への要望)</p> <p>前半、後半の講義の理解促進のために参考文献を予め提示する。事前に、文献を熟読し講義に出席すること。また、海外の動向を読み取るにあたり、英語文献も参照する。英語文献読破への挑戦も試みて欲しい。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 インTRODクシヨN  第2回 国際スポーツ政策を分析する (Discourse Analysis) ~政策変遷をどのように読み取るのか  第3回 スポーツ・フォー・オール政策が実現するまでの政策過程  第4回 エリートスポーツ政策が求められる社会背景  第5回 オリンピックとスポーツ (1) 戦争とスポーツ政策  第6回 オリンピックとスポーツ (2) アマチュアリズムからプロフェッショナリズムへ  第7回 国際的な活動を展開する利益集団  第8回 National Governing BodyとNational Federation  第9回 諸外国のスポーツ政策 (1) ヨーロッパ  第10回 諸外国のスポーツ政策 (2) オーストラリア  第11回 諸外国のスポーツ政策 (3) アジア  第12回 パラリンピックと障害者政策  第13回 障害者スポーツとスポーツ政策動向の変遷  第14回 国際スポーツ政策からみる我が国のスポーツ政策の動向  第15回 まとめ</p>				